

災害医療研究室

室長 定光大海

救命救急センター・救急科（総合救急部）は主に大阪府下の三次救急を担っており、外因による重症患者の受入れを特徴とした救命救急センターとなっている。院外心停止例も年間200件平均受け入れている。時間外に二次救急医療機関で受け入れが困難な事例へ対応する大阪府コーディネート事業にも参加している。コーディネートを求められる事例には、高齢者、薬物大量服用、飲酒、精神疾患で身体損傷を伴う事例などが多く、社会の根の深い問題に直面している。その他にも救急救命士を含む救急隊員の病院前医療活動の質を保証するメディカルコントロール（MC）や政策医療の一つである災害医療にも対応している。

災害医療では、DMAT（Disaster Medical Assistance Team）としての対応や放射線災害に対する緊急被ばく医療を主要な業務として、広域の共同研究や災害訓練にかかわってきた。平成25年10月にDMAT事務局が本院で開設され、東京にある事務局の代替機能を果たすことが求められ、平成26年度にはDMAT技能維持研修を全国で8回担当し、今後もさらに役割が拡大する。南海トラフ巨大地震、首都直下型地震をはじめ、自然災害や人為的災害にも対応できる機能と機動性の充実を図る必要がある。

研究テーマも三次救急の代表的な病態である多発外傷、院外心停止、中毒、熱傷、多臓器不全が中心になる。厚生科学研究費補助金による「災害時効果的初動期医療の確保及び改善に関する研究」では共同研究者として災害時の標準的診療録を作成した。さらに主任研究者として厚生労働省指定研究「南海トラフ巨大地震の被害想定に対するDMATによる急性期医療対応に関する研究」を報告し、厚生労働省の進めている災害急性期医療対応の判断根拠となるデータを作成した。2年間にわたる首都直下型地震を想定した指定研究も行い（平成27年度終了）、今後の発生が想定されている大災害時のDMATの戦略的対応に関する研究を行った。救急医学関連では、現在は、学会主導型で行われる、外傷、敗血症、ARDS、市中劇症型感染症（以上、日本救急医学会多施設共同研究；JAAM FORECAST）、急性CO中毒等の多施設共同研究に参画する準備を行い、平成28年度からスタートする予定である。

これから新たな専門医制度が始まるが、救急を担う医師の確保はさらに難しくなることが予測される。災害医療を担う人材も含めて救急科専門医の確保と診療・研究機能の新たな展開を目指したい。

【2015年度 研究発表業績】

A-0

Matsumoto H, Ohnishi M, Wakai A, Hirose T, Mori N, Tachino J, Sadamitsu D, Shimazu T : Safe tracheostomy: blunt puncture and dilation after minimal surgical exposure of the trachea (BPAD tracheostomy). Clinical case reports 2015;3: 773-776.

Kajino K, Kitamura T, Kiyohara K, Iwami T, Daya M, Hock Ong ME, Shimazu T, Sadamitsu D : Temporal Trends in Outcomes after Out-of-Hospital Cardiac Arrests Witnessed by Emergency Medical Services in Japan: A Population-Based Study. D.Prehosp Emerg Care. 2016 Feb 6:1-8. [Epub ahead of

print]

Lin CH, Ng YY, Chiang WC, Karim SA, Shin SD, Tanaka H, Nishiuchi T, Kajino K, Khunkhlai N, Ma MH, Ong ME.J : Variation of current protocols for managing out-of-hospital cardiac arrest in prehospital settings among Asian countries. Formos Med Assoc. 2015 Nov 17. pii: S0929-6646(15)00341-1. doi:10.1016/j.jfma.2015.10.003. [Epub ahead of print]

Ro YS, Shin SD, Kitamura T, Lee EJ, Kajino K, Song KJ, Nishiyama C, Kong SY, Sakai T, Nishiuchi T, Hayashi Y, Iwami T; Seoul-Osaka Resuscitation Study Group : Temporal trends in out-of-hospital cardiac arrest survival outcomes between two metropolitan communities: Seoul-Osaka resuscitation study. BMJ Open. 2015 Jun 9;5(6):e007626. doi: 10.1136/bmjopen-2015-007626.

A-2

定光大海 : 三環形抗うつ薬中毒、炭酸リチウム中毒「今日の治療指針 2016」 p132、医学書院、東京、2016年1月

梶野健太郎 : DMAT「救急医学」Vol.40 No.3 –、へるす出版、東京、2016年3月

梶野健太郎 : 「JRC 蘇生ガイドライン 2015」日本蘇生協議会、医学書院、東京、2016年1月

A-3

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海 : 救命救急外来用電子カルテ1年間の運用状況の分析「医療情報学」2015;35:219-227

岡垣篤彦、定光大海 : GIS連携アプリケーションの作成による南海トラフ巨大地震の医療機関の被害想定作成およびDMATによる急性期医療対応計画策定「医療情報学」2015;35:3-17

A-5

梶野健太郎 : 首都直下地震の被害想定に基づいたDMAT必要数の算定に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「首都直下地震に対応したDMATの戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究」平成26年度総括・分担研究報告書、P.87-88、2016年3月

定光大海 : 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「首都直下地震に対応したDMATの戦略的医療活動に必要な医療支援の定量的評価に関する研究」平成26年度総括・分担研究報告書、P.1-19、2016年3月

B-1

Kajino K : Disaster Medical Assistance Team. The 8th Asian Conference for Emergency Medicine (ACEM 2015), Taipei, Taiwan, 2015年11月8日

Kajino K : Fundamentals of Disaster Preparedness. The 8th Asian Conference for Emergency Medicine (ACEM 2015), Taipei, Taiwan, 2015年11月6日

Kajino K : ED Trauma Research. Pan-Asian Trauma Outcomes Study Symposium and Research Workshop in Seoul, Korea, 2015年10月7日

B-2

Ehara N, Ishida K, Wakai A, Sadamitsu D : Successful transcatheter arterial embolization for continuous bleeding of the intercostal artery after emergency room thoracotomy for severe blunt thoracic injury, JSIR, ISIR and APCIO 2015, Japan, 2015年5月28日

B-3

梶野健太郎、定光大海、若井聡智、岡垣篤彦 : 南海トラフ巨大地震の被害想定に基づく必要DMAT数の検討(中部ブロックについて)。第21回日本集団災害医学会、山形、2016年2月28日

梶野健太郎、岡垣篤彦、若井聡智、定光大海 : 首都直下地震の被害想定に基づく必要DMAT数の検討。第69回国立病院総合医学会、札幌、2015年10月2日

梶野健太郎、岡垣篤彦、若井聡智、定光大海 : 首都直下地震の被害想定に基づく必要DMAT数の検討。第43回日本救急医学会総会、東京、2015年10月22日

B-4

若井聡智、佐尾山裕生、服部雄司、太西光雄、定光大海 : 重症急性期患者におけるボーラス栄養投与時の血中インクレチン値の推移。第18回日本臨床救急医学会、富山、2015年6月6日

上尾光弘、岡垣篤彦、定光大海 : 3次救急外来用電子カルテ作成とその1年半の運用状況と分析。第69回国立病院総合医学会、札幌、2015年10月2日

佐尾山裕生、石田健一郎、家城洋平、曾我部拓、梶野健太郎、島原由美子、若井聡智、大河内謙太郎、西村哲郎、上尾光弘、定光大海 : 意識障害を伴った熱中症の併存疾患について。第43回日本救急医学会総会、東京、2015年10月21日。

B-6

佐尾山裕生、石田健一郎、榎原巨樹、上尾光弘、若井聡智、曾我部拓、島原由美子、西村哲郎、定光大海、家城洋平、大河内謙太郎 : 鈍的脾損傷へのTAE後に生じた脾膿瘍に対し、経皮的ドレナージで治癒した1例。第112回近畿救急医学研究会、大阪、2015年7月11日

大河内謙太郎、福田貴史、岩谷博次、石田健一郎、家城洋平、岩佐信孝、梶野健太郎、佐尾山裕生、曾我部拓、下野圭一郎、高端恭輔、若井聡智、上尾光弘、木下順弘、定光大海 : アセチルサリチル酸の大量摂取後、尿アルカリ化により血液透析を回避できた一例。第36回日本中毒学会西日本地方会、大阪、2016年2月6日

B-8

定光大海：南海トラフ巨大地震の被害想定と医療対応。第146回阪大病院フォーラム、大阪、2015年9月10日

定光大海：超高齢社会における救急医療体制。大阪府医師会救急災害医療研修会、大阪、2015年9月10日

定光大海：広域災害への医療対応の現状と問題点。第9回都市防災と集団災害医療フォーラム、東京、2015年12月8日